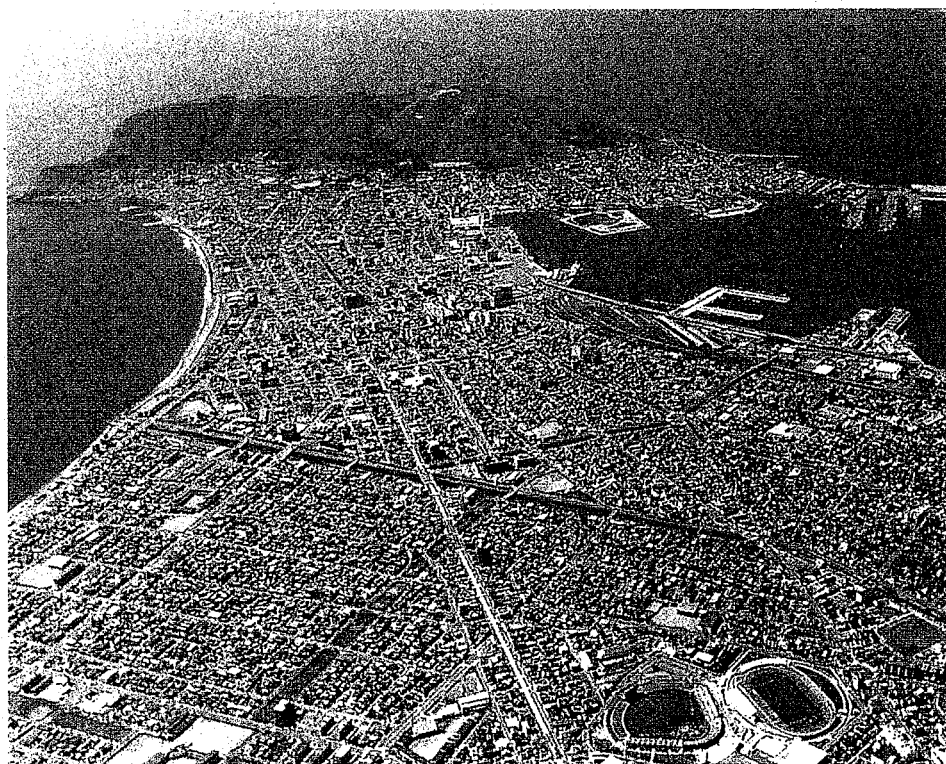


*HAKODATE CITY SPORTS PROMOTION PLAN*

# 函館市スポーツ振興計画



函館市教育委員会

## 函館市のスポーツの沿革

当市のスポーツにおける沿革をふり返えると、明治13年(1880)、函館港内でわが国最初といわれるスクーナー13隻によるヨットレースが行われ、明治28年(1895)には、函館尋常中学校で柔術・銃剣を教えたことが記録に残されております。また、わが国初の社会人野球のクラブチームである函館太洋(オーシャン)倶楽部が、明治40年(1907)に結成されました。

大正期から昭和初期にかけては、サッカー、陸上競技、ラグビー、スキー、スケートなどの競技団体が相次いで設立される一方で、昭和2年(1927)には北海道体育協会の創立に先駆けて、函館市体育協会が誕生するなど、各種の競技スポーツ団体が早くから様々な活動を続けてきました。

戦後は、これらの競技団体を中心に当市のスポーツ界は、国民体育大会、全国高等学校総合体育大会、全国高等学校野球選手権大会等で活躍するチームや選手を輩出するなど隆盛を誇り、昭和29年(1954)には当市で初めて国民体育大会の高校野球とハンドボールの2種目の競技が開催されました。

東京オリンピックが開催された昭和39年(1964)には、初めて青函対抗体育大会が開催されました。また、昭和43年(1968)には函館市スポーツ少年団が結成されたほか、昭和46年(1971)には函館市民プール、昭和50年(1975)には函館市民体育館が、地域スポーツの拠点施設として開館するとともに、これらの施設を活用した市民スポーツ教室や健康教室をはじめ、地域や職場対抗での各種スポーツ大会の開催など、市民スポーツの活動が一段と活発化してきました。

昭和62年(1987)には全国高等学校総合体育大会(水泳・自転車)が、翌年には全国レクリエーション大会、引き続き平成元年(1989)には国民体育大会夏季大会(水泳)および秋季大会(自転車)が当市で開催されました。

こうした状況を背景に、地域の文化・スポーツの振興を目的とする組織として、平成元年(1989)に(財)函館市文化・スポーツ振興財団が設立されるとともに、平成4年(1992)には「スポーツ健康都市」を宣言し、市民のスポーツと健康づくりを通じた活力あふれるまちづくりをめざして、各種の施策展開に取り組んできたところであります。

また、近年は市民のスポーツ・レクリエーション活動の場として、千代台公園の野球場や陸上競技場など各種スポーツ施設をはじめ、日吉サッカー場、市民スケート場、ネット式湯川海水浴場、はこだてオートキャンプ場などの整備を進めるとともに、これらの施設を活用した当市の特色あるスポーツイベントとして、プロ野球、Jリーグやツール・ド・北海道国際大会など、プロスポーツや各種スポーツ大会の誘致開催に取り組んでいます。

# 目 次

---

## 第1章 計画策定にあたって

I 計画策定の趣旨	2
II 計画の基本的方向	3
III 計画の期間	3

## 第2章 現況・課題と今後の方向

I 生涯スポーツ	6
II 競技スポーツ	13
III 学校体育・スポーツ	17
IV 障害者スポーツ	19
V スポーツ・レクリエーション施設	22

## 第3章 スポーツ振興のための基本的施策

I 生涯スポーツの振興	26
II 競技スポーツの振興	27
III 学校体育・スポーツの充実	28
IV 障害者スポーツの振興	29
V スポーツ・レクリエーション施設の整備・活用	30

資料編	34
-----	----



# 第1章

## 計画策定にあたって

# 第1章 計画策定にあたって

## 1 計画策定の趣旨

スポーツは、人間の体を動かすという本源的な欲求に応えるとともに、爽快感、達成感、他者との連帯感など精神的な充足をもたらす、人生を豊かにするものであり、健康の保持増進、体力の向上のみならず、とりわけ青少年にとっては、心身の健全な発達に資するものです。

近年、少子・高齢社会の進行や価値観の多様化が進むなかで、市民のあいだではスポーツに対する意識の変化が見られ、スポーツの楽しさや感動を体験し、さらには仲間や自然とのふれあいを求めるなど、市民のスポーツに対するニーズも多様化しています。

また、情報化の進展等により「見るスポーツ」が幅広い年齢層に親しまれるようになっていますが、地元を代表する選手やチームが競技力の向上をめざし、鍛錬を重ねて可能性の限界に挑戦する姿は、青少年をはじめ多くの市民に夢や感動を与え、明るく活力あるまちづくりに大きく貢献するものです。

こうしたなかで、当市は平成4年10月10日に、「スポーツ健康都市」を宣言し、スポーツと健康づくりを通して、活力あるまちづくりを進めるため、各種施策の展開に取り組んできたところであります。

この計画は、近年、さらに多様化・高度化している市民ニーズを背景に、市民だれもが生涯を通じ、健康を守り、スポーツ・レクリエーション活動に親しむことができ、夢と感動に満ちたスポーツの振興を目的として策定するものであり、その現況と課題を踏まえながら、中・長期的な視点に立ったスポーツ振興のための基本的な施策を明らかにするものであります。

## II 計画の基本的方向

次の5つの基本的方向に基づき当市スポーツの総合的な振興に取り組みます。

- (1) 子どもから高齢者まで、市民のだれもが生涯にわたって健康で心豊かなスポーツライフを送ることのできる生涯スポーツ社会の実現に努めます。
- (2) 市民に夢と感動を与え、明るく活力ある社会の形成に寄与する強い競技スポーツを目指し、総合的な競技力の向上に努めます。
- (3) 子どもたちの健全な育成を図るため、学習指導の充実を図るとともに、生涯スポーツや競技スポーツとの連携を進めます。
- (4) ノーマライゼーションの理念に基づき、多くの障害者がスポーツに参加できるよう身近で親しみやすい障害者スポーツの振興を図ります。
- (5) 市民だれもが、それぞれの体力や年齢、技術、興味、目的に応じて、いつでも、どこでも、気軽にスポーツや健康づくりに親しめる環境を整備します。

## III 計画の期間

この計画の期間は、平成16年度（2004年）から、概ね10年間とします。

施策については、前・後期に分けて計画的に推進します。





## 第2章

### 現況・課題と今後の方向

## 第2章 現況・課題と今後の方向

### 1 生涯スポーツ

#### 1 現況と課題

心身ともに健康で充実した生活を営むためには、生涯にわたり豊かなスポーツライフを送ることが、大切なことであり、だれもが、いつでも、どこでも、スポーツに親しむことができる生涯スポーツ社会の実現が求められています。

スポーツ活動や健康づくりへの志向が高まる中で、本市においては、多くの市民がニュースポーツや自然との触れあいを求めるアウトドアスポーツなど多種多様なスポーツに親しんでいます。しかし一方では、平成13年に実施した市民のスポーツ活動についての市民アンケートによると、「忙しくて時間がない」や「年齢が高い」などの理由から、スポーツをほとんどしないという人が50%以上います。国の同様の調査では、スポーツをしないと答えた人の割合は31.8%であり、これと比べても、本市のスポーツの実施頻度は低い状況となっています。このため今後は、市民だれもが、スポーツ、健康づくりに関心を持ち、いつでも気軽に参加することのできるよう、意識の啓発やスポーツ環境の整備に努めていくことが必要です。

図1 スポーツの実施頻度

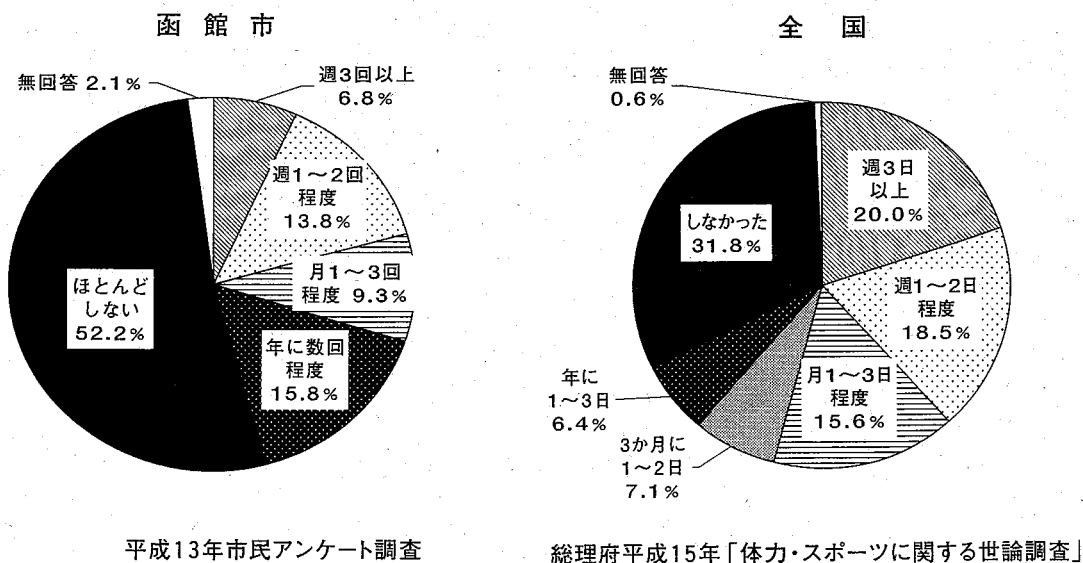
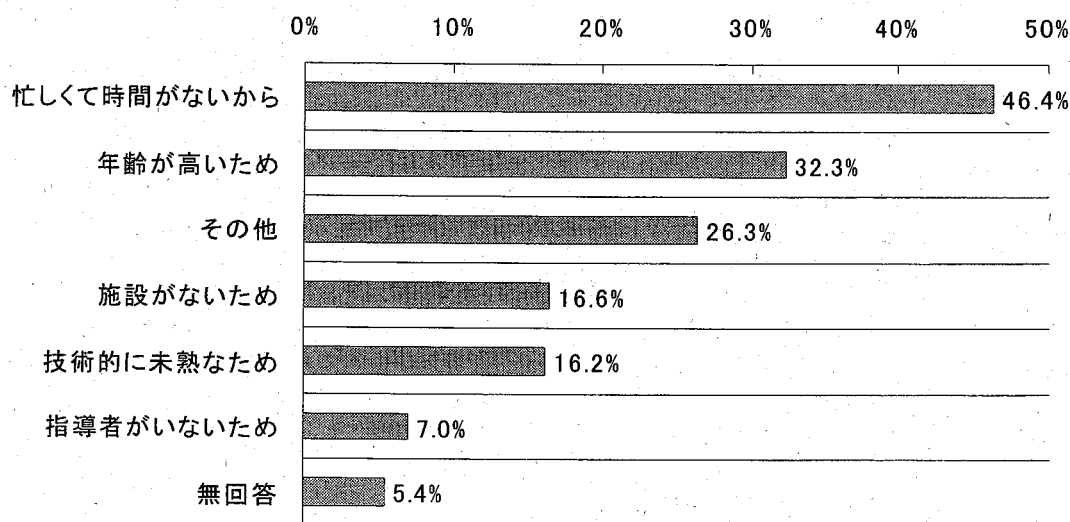
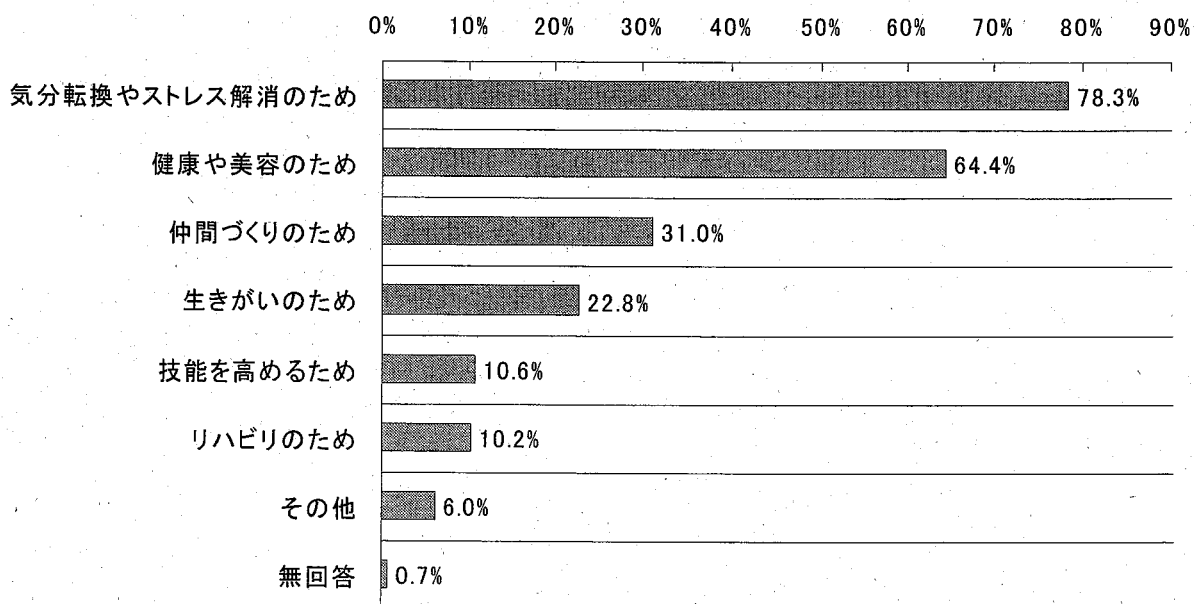


図2 スポーツをしない理由（函館市）



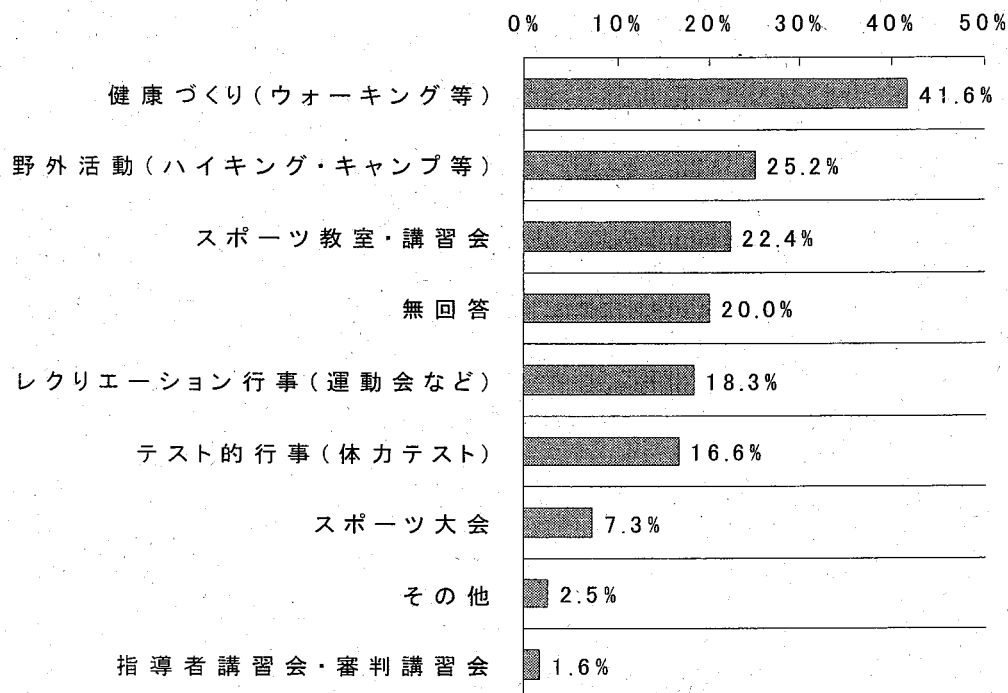
平成13年市民アンケート調査（複数回答）

図3 スポーツをする理由（函館市）



平成13年市民アンケート調査（複数回答）

図4 参加したいスポーツ行事（函館市）



平成13年市民アンケート調査(複数回答)

表1 現在行っている・今後行いたいスポーツ（トップ10）

順位	現在行っているスポーツ	(%)	今後行いたいスポーツ	(%)
1	ウォーキング	20.8	水泳	20.2
2	水泳	18.1	テニス	9.9
3	ゴルフ	13.5	パークゴルフ	8.3
4	スキー・スノーボード	12.6	スキー・スノーボード	6.5
5	体操(ラジオ・ヨガ等)	12.2	ウォーキング	6.1
6	ランニング・ジョギング	11.7	バレーボール	5.2
7	パークゴルフ	11.5	卓球	5.2
8	テニス	6.9	ゴルフ	4.7
9	ダンス(ジャズ・エアロビクス等)	6.9	体操(ラジオ・ヨガ等)	4.7
10	野球・ソフトボール	6.2	バドミントン	4.4

平成13年市民アンケート調査(複数回答)



水中ウォーキング教室



市民パークゴルフ大会

## 2 今後の方向

### (1) スポーツ・健康づくりに親しむ意識の啓発

生涯スポーツ社会を実現するためには、スポーツや健康づくりに関心のない人への参加の働きかけも大切であることから、健康の維持増進やスポーツの重要性について、関係機関との連携を図りながら、「まなびつと広場」など生涯学習事業などを通じ、情報提供や相談体制の充実を図るとともに、各種教室の開催などを通じて、家庭や地域住民への普及啓発に努めます。

### (2) 市民だれもが参加できるスポーツ・レクリエーション活動の充実

市民だれもが、年齢、体力、技術に左右されずに気軽に楽しめるニュースポーツなどの各種スポーツ教室やスポーツ行事等の開催など、きっかけづくりを進めるとともに、世代を超えた交流や触れあいを図るため、ウォーキングやパークゴルフなど、身近にできるスポーツの普及に努めます。さらには市民の自然との触れあい志向の高まりに対応するため、地域の四季の移り変わりに富んだ自然に親しむマリンスポーツや野外活動、スキー、スケートなど冬季スポーツの普及に努めます。また、関係団体と連携し、渡島スポーツフェスタをはじめ、各種地域交流大会や交流事業の充実支援を図り、道南をはじめ、国内各地との地域交流を促進します。

### (3) スポーツ・レクリエーション団体の育成と指導者の養成

市民が日常的、継続的に様々なスポーツ活動や仲間との交流を推進していくうえで、大きな役割を果たしているスポーツ・レクリエーション団体の活動をさらに活発化させるため、団体の情報提供や活動場所の確保など、団体への活動支援に努めます。

また、誰もが気軽に楽しめるニュースポーツやレクリエーション活動の普及、定着を図るため、適切な指導を行えるスポーツ指導者の養成と確保に努めることが不可欠であることから、研修会・講習会等の開催に努めるとともに、リーダーバンクの積極的な活用を図ります。

### (4) 地域開放事業の推進と総合型地域スポーツクラブの育成

現在、住民が町会やPTA、スポーツ少年団等と連携し、地域の学校体育館を拠点として、自主的にスポーツ・レクリエーション活動を行う「地域開放事業」について、今後全市

的な展開に努めます。

当市では「地域開放事業」を行っている地域の中からモデル地区を選定し、住民が地域のなかで身近にスポーツに親しむ環境づくりを進めるため、このモデル地区を母体として、地域の実情に合った「総合型地域スポーツクラブ」の設立を促進します。

「総合型地域スポーツクラブ」は、様々な種目が用意され、子どもから高齢者まで、初心者から上級者まで、地域のだれもが生涯をとおしてスポーツの楽しさを共有し、地域交流を深め、スポーツ振興とともに地域づくりに大きな役割を果たすものと期待されています。「総合型地域スポーツクラブ」の定着には、地域住民の理解が重要であり、今後、その普及啓発に努めます。

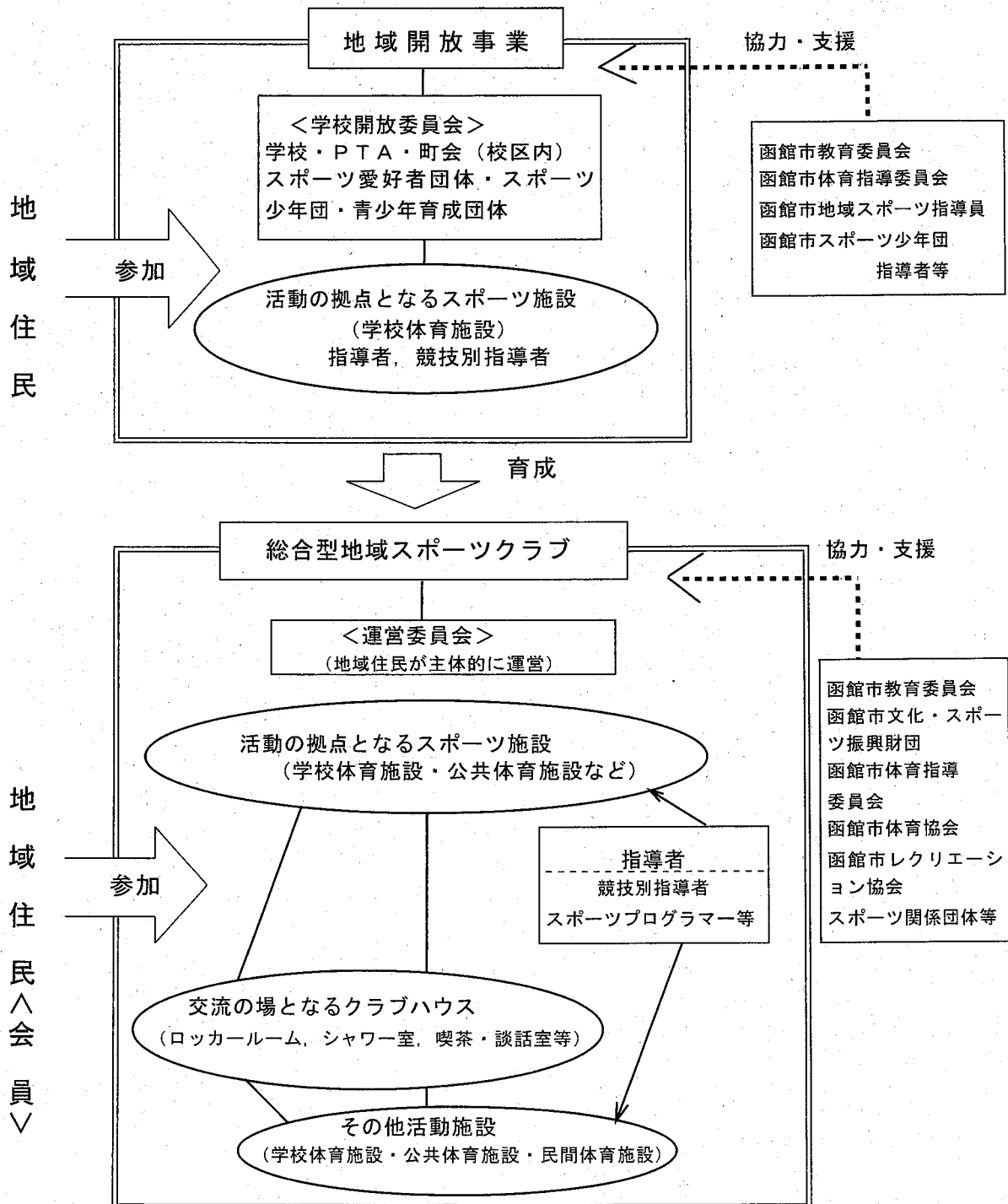
#### <参考 文部科学省の示す総合型地域スポーツクラブの考え方>

身近な生活圏にある学校体育施設等を拠点として、地域住民が主体的に運営するスポーツクラブの形態で、次のような特徴があります。

- ① 複数の種目が用意されている。
- ② 子どもから高齢者まで、初心者からトップレベルの競技者まで、地域住民のだれもが、年齢、興味・関心、技術・技能レベルなどに応じて、いつまでも活動できる。
- ③ 活動の拠点となるスポーツ施設およびクラブハウスがあり、定期的・継続的なスポーツ活動を行うことができる。
- ④ 質の高い指導者がいて、個々のスポーツニーズに応じたスポーツ指導が行われる。
- ⑤ 以上のようなことについて、地域住民が主体的に運営する。

(出典：文部科学省 スポーツ振興基本計画)

## 地域開放事業から総合型地域スポーツクラブの育成へ



- ・複数の種目が用意されている。  
（例：サッカー、バドミントン、水泳等）
- ・地域のだれもが年齢、興味・関心、技術・技能レベルなどに応じて、いつまでも活動できる。  
（子供から高齢者まで、初心者からトップレベルの競技者まで）
- ・定期的・継続的なスポーツ活動を行うことができる。
- ・個々のスポーツニーズに応じたスポーツ指導が行われる。
- ・地域住民が主体的に運営する。



## II 競技スポーツ

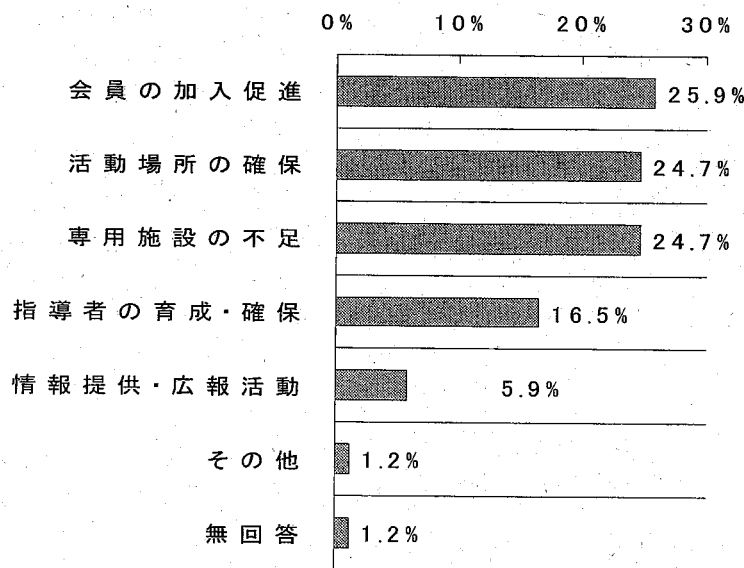
### 1 現況と課題

全国大会などでの郷土を代表する選手やチームの活躍は、多くの青少年をはじめ市民に夢や感動を与え、また地域コミュニティの一員として、地域への誇りと連帯感を生むものであり、活力ある健全な地域づくりを進めていくうえで、大きな意義があります。

当市の競技スポーツは、道内あるいは全国的にも古くからの歴史と伝統を有しており、全国大会で好成績をあげるチームや選手を輩出し、北海道を代表する実力を発揮している競技団体も数多くあります。長い歴史を有する函館市体育協会には、現在、40以上の競技団体が加盟し、地域の競技スポーツの普及・振興と競技力の向上に取り組んでいます。

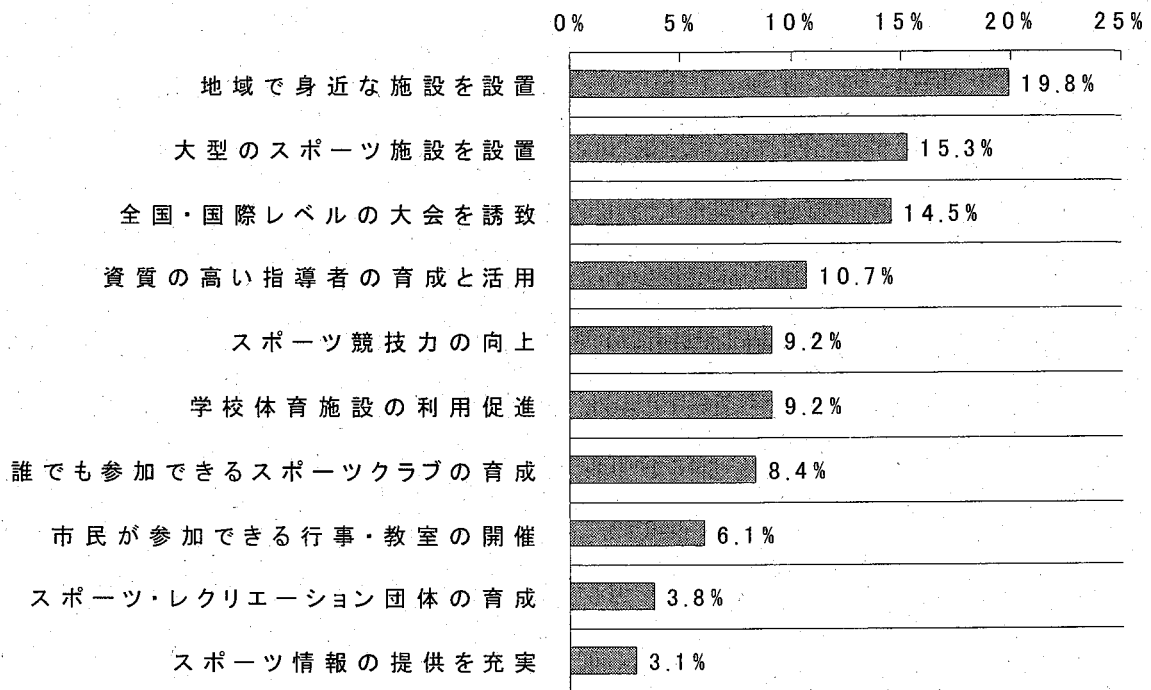
しかし、少子化が進むなかで、競技人口が減少してきている種目や、継続的に競技レベルを維持することが困難な種目、また十分に普及していない種目もあるなどの課題もあり、今後、競技スポーツの振興・発展を図るためには、中心的な役割を果たしている競技団体によるジュニア期から社会人までの一貫した指導体制の確立や競技人口の底辺拡大など一層の取り組みが望まれています。

図5 スポーツの普及・振興活動での課題（函館市）



平成13年函館市スポーツ団体調査(複数回答)

図6 競技団体が重要と考えているスポーツ振興施策  
(函館市)



平成13年函館市スポーツ団体調査(複数回答)



ウラジオストク市からのサッカーチームとの親善試合

表2 函館市体育協会加盟団体

函館サッカー協会	函館柔道連盟
函館卓球協会	函館地区自転車競技連盟
函館市ラグビーフットボール協会	函館スキー連盟
函館テニス協会	函館水泳協会
函館ソフトテニス連盟	函館市スケート協会
函館ハンドボール協会	函館ボート協会
道南ソフトボール協会	函館アマチュアボクシング協会
函館地区バスケットボール協会	函館地区バドミントン協会
函館バレーボール協会	函館地区相撲連盟
函館バウンドテニス協会	北海道銃剣道連盟函館支部
函館市ゲートボール協会	函館地区体操連盟
北海道ボウリング連盟函館支部	函館地区空手道連盟
函館グラウンド・ゴルフ協会	函館ライフル射撃協会
函館パークゴルフ協会	函館なぎなた連盟
函館市スポーツ少年団	公認函館真向法協会
函館軟式野球連盟	函館アイスホッケー協会
道南陸上競技協会	南北海道外洋帆走協会
函館ヨット協会	函館トライアスロン連合
函館市弓道連盟	函館クレー射撃協会
函館アーチェリー協会	函館ダンススポーツ連盟
函館剣道連盟	函館市中学校体育連盟
函館地区山岳連盟	北海道高等学校体育連盟函館支部

## 2 今後の方向

### (1) 競技スポーツ指導者の養成と競技力の向上

トップレベルの競技者を育成するためには、より高い指導力や高度な専門知識を有した指導者の養成を図るとともに、ジュニア期から一貫した指導理念に基づき、選手の特性や発達段階に応じた最適の指導を受ける一貫指導システムの確立が重要であることから、函館市体育協会や各競技団体をはじめ、スポーツ少年団、学校が相互の連携を一層深め、組織的・計画的に選手を育成する体制の確立に努めます。さらには強化合宿の充実やスポーツ医・科学を取り入れたトレーニングの導入を進めるなど、競技力の一層の向上に努めます。

また、当市の競技スポーツの普及と競技力の向上のため、大きな役割を果たしている競技団体への支援や連携強化に努めます。

### (2) 全国・国際大会やスポーツ合宿などの誘致

競技場でトップレベルのプレーを観戦し、地元チームを応援することは、大きな感動と興奮を与え、市民のスポーツへの興味・関心や、スポーツ参加への意欲を高め、地域スポーツの競技水準の向上に資することになり、地域の活性化が期待されることから、今後さらに、全国・国際レベルの大会やプロスポーツのイベント、学生、実業団等のスポーツ合宿の誘致に努めます。

### (3) スポーツ交流の促進

スポーツは、言葉の壁を超えた世界共通の文化であり、スポーツ交流は競技力の向上や相互理解の推進に大きな役割を果たしており、関係団体と連携を図りながら、道内外のトップチームとの交流親善試合の開催や、優れた指導者の招聘など、国内交流はもとより、ウラジオストク市（ロシア）や、レイク・マコーリー市（オーストラリア）など姉妹都市をはじめ海外との交流を促進します。

### III 学校体育・スポーツ

#### 1 現況と課題

近年、児童生徒の体力・運動能力の低下や日常生活での身体活動の減少傾向が見られることから、今後、多くの児童生徒が運動に関心を持ち続け、生涯にわたってスポーツ活動や運動に親しめる環境を整備することが、一層重要になっています。

こうした中、学校教育の「体育」・「保健体育」においては、たくましく生きる体力や互いに相手を尊重したり協調する豊かな人間性を育成し、「生きる力」の基礎を培うものであり、一層の学習指導の充実が求められています。

また、一方では、都市化や少子化の進行に伴い、児童生徒の運動や外遊びの機会や場が減少し、さらには運動部活動が制約されてきているなど、児童生徒を取り巻く生育環境、スポーツ環境は、大きく変化しており、今後、地域のスポーツ活動との関わりを一層強化していくことが重要となっています。

表3 中学校体育連盟 部活動参加生徒数推移

年 度		平成11年度	平成12年度	平成13年度	平成14年度	平成15年度
函 館 市	参加生徒数	5,221	4,899	4,889	4,696	4,336
	生徒総数	8,825	9,031	8,839	8,532	8,186
	参加率(%)	59.16	54.24	55.31	55.03	52.96
全 道	参加生徒数	113,146	108,378	103,944	98,868	95,083
	生徒総数	190,434	183,390	176,927	171,020	163,640
	参加率(%)	59.41	59.09	58.74	57.81	58.10

(北海道中学校体育連盟調べ)

## 2 今後の方向

### (1) 学校体育の充実

「体育」・「保健体育」の教科を通して、健康で安全な生活を送ることの大切さを理解し、自分の生活習慣や心身の状態を正しくとらえ、健康に対する課題を自ら考え、解決していく能力や資質を身につけるための学習指導の充実に努めます。

具体的には、児童生徒の発達段階に応じ、一人ひとりが能力や適性を伸ばすことに重点を置き、健康的な生活習慣と、主体的に様々なスポーツ活動に参加できるよう、運動部活動や全校的なスポーツ行事をさらに充実し、「総合的な学習の時間」においても、地域の豊かな自然を活用した野外活動や自然体験などレクリエーション活動を取り入れるなど、広範な学校体育活動の充実に努めます。さらには、学校医をはじめ、家庭や地域、保健所など関係機関との連携、協力を図り、一層の健康教育の推進を図ります。

### (2) 運動部活動の充実

運動部活動の充実を図るため、練習と休養の適切な確保に努め、生徒の体力、能力に合った活動に心がけるとともに、生徒の主体性を尊重した指導の充実に努めます。また、指導者の資質向上を図り、地域の優れた指導者の活用に努めます。さらには複数の学校でチームを編成する複数校合同の運動部活動の導入など、少子化に対応した柔軟な運動部活動のあり方について検討を進めます。

### (3) 地域スポーツ活動への参加促進

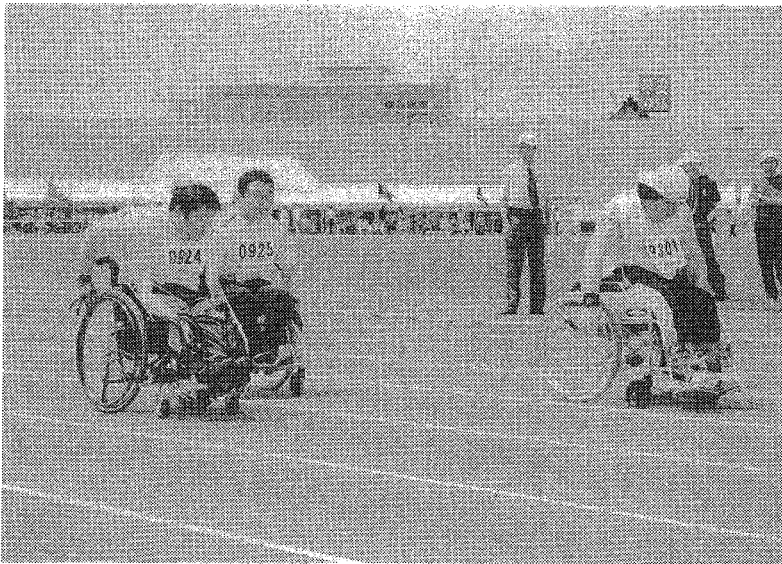
今後、地域において、子どもを育成する観点から、学校の地域開放事業で行われる各種スポーツ教室やスポーツ・レクリエーション行事をはじめ、スポーツ少年団の活動など、地域のスポーツ活動への子どもたちの積極的な参加を促進します。

## IV 障害者スポーツ

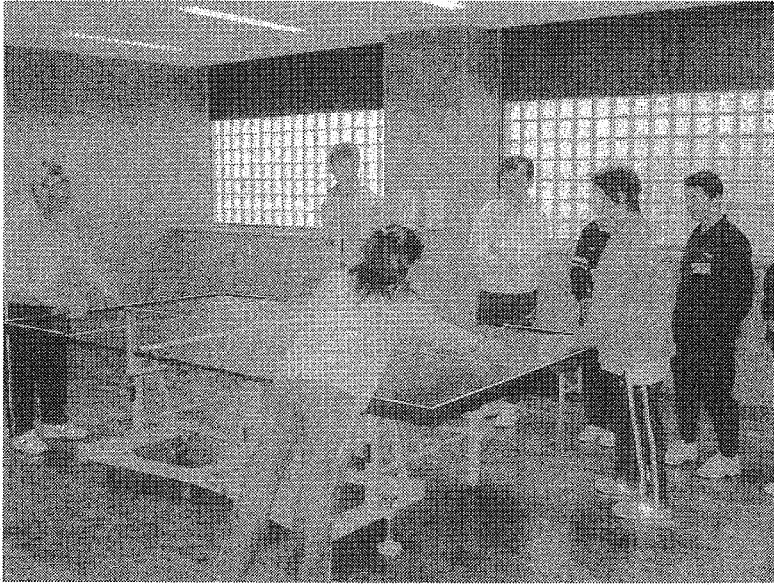
### 1 現況と課題

障害者とスポーツの関わりは、リハビリテーションの一環として、機能の回復維持や健康保持を図ることが主な役割として考えられてきましたが、近年、障害者スポーツは、ノーマライゼーションの考え方のもと、それぞれの障害の種別や程度、体力に合った身近で親しみやすい障害者スポーツの充実・振興を図ることが求められています。

本市では、障害者のスポーツ活動として、陸上競技や水泳、車椅子バスケットボール、サウンドテーブルテニス、フライングディスクなど様々な種目のスポーツが行われていますが、他方、障害者の多くはスポーツ・レクリエーション活動への参加が少ない状況であることや、近年、障害者スポーツに取り組む人の中で競技力や記録の向上を目指す人も増加するなど、ニーズも多様化してきています。このため、今後は、障害者だれもが健康づくりやスポーツに親しめる環境づくりを進めていくことが必要となっています。



第40回北海道障害者スポーツ大会



平成14年度障害者スポーツ指導者養成研修会



## 2 今後の方向

### (1) 生涯スポーツ活動への参加機会の拡充

障害者の生涯スポーツ活動への参加を促すため、それぞれの障害の程度、体力に合った身近で親しめる障害者スポーツ教室やスポーツ・レクリエーション行事の充実をはじめ、障害者スポーツに関する情報の提供、さらには一般市民対象のスポーツイベントへの障害者の参加を進めます。

### (2) 競技スポーツの振興

障害者の競技スポーツの振興を図るため、全国障害者スポーツ大会や北海道障害者スポーツ大会など、支援制度の充実も含め、全道、全国大会への参加の促進やこれらの大会の誘致に努めます。

### (3) 指導者やボランティアの養成と活用

今後、障害者スポーツの指導者を養成するため、函館市スポーツ振興基金を活用し、「障害者スポーツ指導者養成研修会」の一層の充実を図るほか、関係機関をはじめ、ボランティア団体や関係団体との連携のもと、スポーツに親しむ障害者のための指導者の養成や障害者スポーツを支えるボランティアの育成とその活用に努めます。

## V スポーツ・レクリエーション施設

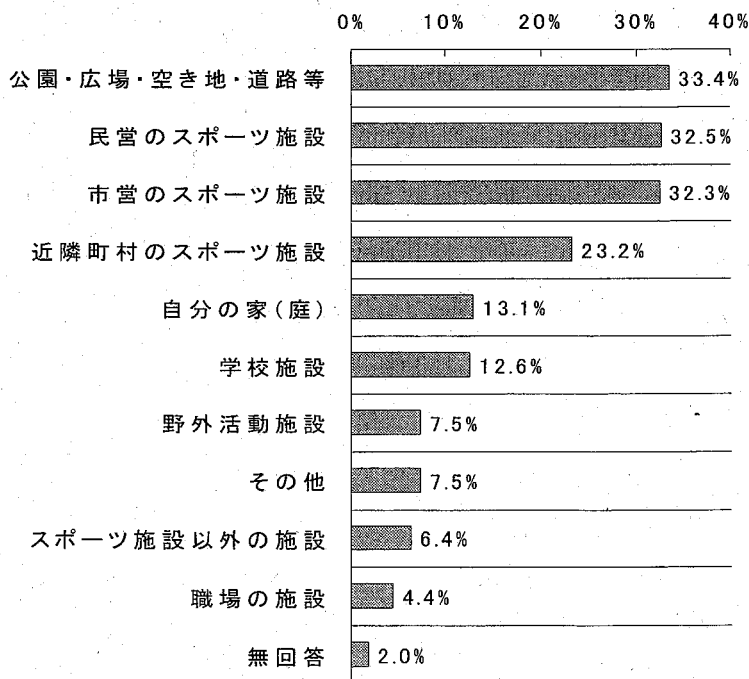
### 1 現況と課題

本市では、これまで市民体育館や千代台公園野球場、陸上競技場、市民プール、庭球場をはじめ、日吉サッカー場、根崎ラグビー場のほかパークゴルフ場、オートキャンプ場、運動広場など、公共のスポーツ・レクリエーション施設の整備を進めています。

また、市民が身近にスポーツ活動を行う場として、学校施設を開放しているほか、函館勤労者総合福祉センター（サン・リフレ函館）に併設する地区体育館や函館社会保険健康センター（ペアーレ函館）の屋内プール、民間によるゴルフ場、スポーツクラブなどの様々な施設が、市民に利用されています。

しかしながら、当市の学校体育館の開放率が全国、全道の水準より低い状況であることや、スポーツ活動の場所の確保が、「なかなかできない」という人も一定の割合でいること、さらには一部の施設が老朽化していることや、競技団体から競技スポーツの拠点施設の充実・整備を望む声が多いことなど課題もあり、多様化するスポーツニーズに対応した施設の整備が望まれています。

図7 主な利用施設（函館市）



平成13年市民アンケート調査(複数回答)

図8 スポーツ活動の場所の確保（函館市）

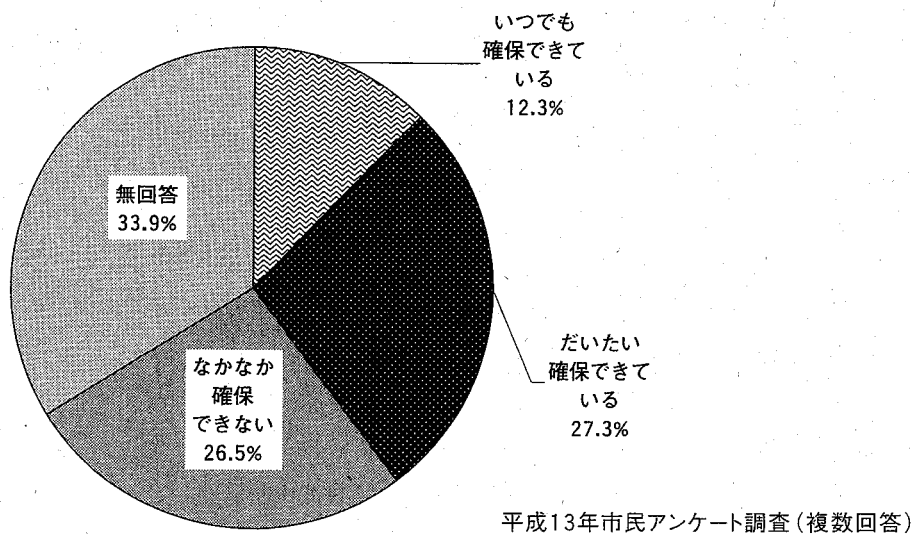


表4 学校体育館の開放状況（小・中・高校）

区分	施設保有校数	開放学校数	開放率（%）
全国	37,120	31,593	85.1
北海道	2,135	1,713	80.2
函館市	79	51	64.6

全国：文部科学省の平成10年「体育・スポーツ施設現況調査報告」による

北海道：北海道教育委員会の平成15年「道民のスポーツ」による

函館市：平成16年12月現在

## 2 今後の方向

### (1) スポーツ・レクリエーション施設の整備・活用

屋内体育施設については、今後、地域の拠点施設として総合的なスポーツ施設の整備について検討を進めるとともに、地区施設として地区体育館の整備推進に努めるほか、屋外体育施設については、今後、多様なニーズに対応できるよう、既存施設の改修や設備のレベルアップを図るとともに、施設の効率的な配置と整備・活用に努めます。

### (2) 学校体育施設の開放の推進

学校体育施設の開放は、市民の身近なスポーツ活動の場として、市民のニーズも高いことから、今後とも利用者に配慮した施設・設備の充実に努めるとともに、開放校の拡充を図ります。

### (3) 民間施設の活用

民間スポーツ施設は、屋内プール、ゴルフ場、テニスコート、フィットネスなど需要の多い施設を中心に整備されています。今後とも行政と民間がそれぞれの特色を生かし、その役割を分担し合いながら、多様化、高度化しているスポーツニーズに対応した施設の整備促進と活用を図ります。

## 第3章

# スポーツ振興のための基本的施策

### 第3章 スポーツ振興のための基本的施策

#### 1 生涯スポーツの振興

生涯にわたる豊かなスポーツライフの実現を目指し、スポーツ・健康づくりに親しむ意識の啓発を進め、市民だれもが参加できるスポーツ・レクリエーション活動の充実とともに、スポーツ・レクリエーション団体や「総合型地域スポーツクラブ」の育成に努めます。

今後の方向	施策	前期	後期
(1) スポーツ・健康づくりに親しむ意識の啓発	スポーツ・健康づくりのための情報提供や広報活動の充実	○	→
	健康・体力づくりに関する関係団体との連携強化と相談体制の充実	○	→
	「まなびっと広場」など生涯学習事業などを通じた情報提供や相談体制の充実	○	→
	中高年を対象とした健康・体力づくりのための各種教室等や行事の充実	○	→
	関係団体と連携した健康診査や体力テストの活用促進	○	→
(2) 市民だれもが参加できるスポーツ・レクリエーション活動の充実	ウォーキングや水泳など、身近に楽しめるスポーツ教室の充実	○	→
	ニュースポーツの普及・振興	○	→
	ニュースポーツの全国大会などの誘致促進	○	→
	スキー、スケートなど冬季スポーツ教室・大会の充実による冬季スポーツ・レクリエーションの振興	○	→
	マリンスポーツなどアウトドアスポーツや野外活動の振興	○	→
	各種地域交流大会や交流事業の充実支援	○	→
	全国スポーツ・レクリエーション祭、全国健康福祉祭（ねんりんピック）など、全国大会への参加支援		○
(3) スポーツ・レクリエーション団体の育成と指導者の養成	スポーツ・レクリエーション団体への活動支援	○	→
	函館市体育指導委員など地域指導者やボランティアの養成・活用	○	→
	函館市体育協会など関係団体との連携による指導体制の充実	○	→
	リーダーバンクの充実と活用	○	→
	函館市スポーツ賞など顕彰事業の充実		○
(4) 地域開放事業の推進と総合型地域スポーツクラブの育成	学校体育施設を活用した地域開放事業の拡充	○	→
	「総合型地域スポーツクラブ」に対する住民ニーズの把握	○	→
	「総合型地域スポーツクラブ」の啓発・普及	○	→
	クラブマネージャーや指導者の養成と活用		○
	地域開放事業を母体とする函館独自の「総合型地域スポーツクラブ」の設立および既存施設の活用等によるクラブハウスの整備（0か所→5か所）	○	→

## II 競技スポーツの振興

市民に夢と感動を与える強い競技スポーツの振興を目指し、競技力向上のための環境づくりを図るとともに、優れた競技スポーツ指導者の養成や競技人口の拡大、さらには、全国・国際大会やスポーツ合宿の誘致等に努めます。

今後の方向	施 策	前期	後期
(1) 競技スポーツ指導者の養成と競技力の向上	各種競技スポーツ指導者の養成とその人材活用	○	→
	体育協会や競技団体、スポーツ少年団、学校等の相互連携による指導体制の充実	○	→
	競技団体における強化合宿の充実	○	→
	全国規模の競技大会等への参加支援	○	→
	函館市体育協会やスポーツ少年団活動等への支援	○	→
	スポーツ医・科学を取り入れた指導方法による指導者研修会等の実施		○
	競技活動に携わる団体や個人に係る情報提供	○	→
	函館市スポーツ賞など顕彰事業の充実（再掲）		○
(2) 全国・国際大会やスポーツ合宿などの誘致	全国大会の誘致促進	○	→
	国際大会の誘致促進		○
	プロスポーツイベントの誘致	○	→
	学生・実業団等のスポーツ合宿の誘致		○
(3) スポーツ交流の促進	道内外のトップチームとの親善試合や優れた指導者の招聘など国内交流の促進		○
	姉妹都市等とのスポーツ交流事業の促進	○	→

### Ⅲ 学校体育・スポーツの充実

生涯にわたるスポーツライフの基礎を育む体育・保健体育や生徒の多様性を尊重した運動部活動の充実に努めるとともに、地域のスポーツ活動への参加を促進します。

今後の方向	施 策	前期	後期
(1) 学校体育 の充実	教科指導の充実	○	→
	家庭、地域、保健所など関係機関との連携強化	○	→
	体育科研究団体との連携強化	○	→
	学校職員の研修や研究指定に関する取り組みの充実	○	→
	自然体験活動の充実	○	→
(2) 運動部活 動の充実	生徒の運動部活動への参加促進	○	→
	ニーズに応じた運動部活動の推進	○	→
	複数校によるチーム編成の促進	○	→
	外部指導者の活用	○	→
	競技団体等との交流促進		○
(3) 地域スポ ーツ活動への参 加促進	スポーツ少年団への参加促進	○	→
	地域スポーツ行事や地域開放事業への参加促進	○	→
	総合型地域スポーツクラブの展開（再掲）	○	→



## IV 障害者スポーツの振興

障害のある人のスポーツ活動への参加を促進するため、その指導者の養成やボランティアの活用、さらには障害者スポーツに関する情報提供の充実に努めるなど、障害の種別・程度や体力に応じて、多くの障害者が参加できる障害者スポーツの振興を図ります。

今後の方向	施策	前期	後期
(1) 生涯スポーツ活動への参加機会の拡充	障害の種別・程度や体力，ニーズに合った障害者スポーツの啓発・普及	○	→
	障害者スポーツに関する情報提供の充実	○	→
	障害者スポーツ教室の充実	○	→
	障害のある人と障害のない人とのスポーツ交流の促進	○	→
	地域におけるスポーツ・レクリエーション行事の開催支援	○	→
	障害者スポーツ団体・サークルへの支援	○	→
(2) 競技スポーツの振興	北海道障害者スポーツ大会など各種大会への参加促進	○	→
	全道・全国大会の誘致促進	○	→
	障害者スポーツ団体・サークルへの支援（再掲）	○	→
(3) 指導者やボランティアの養成と活用	障害者スポーツの指導者養成研修会の充実	○	→
	障害者スポーツ指導者のデータバンクの整備と活用	○	→
	スポーツ・レクリエーション行事へのボランティアの参加促進	○	→

## V スポーツ・レクリエーション施設の整備・活用

市民だれもが生涯にわたって、それぞれの体力や年齢、技術、興味、目的に応じて、いつでも、気軽にスポーツ活動に親しむことのできる生涯スポーツ社会を実現するとともに、強い競技スポーツの基盤となる施設の整備と活用を図ります。

今後の方向	施 策	前期	後期	
(1) スポーツ・レクリエーション施設の整備・活用	総合的なスポーツ施設の整備 (0か所→1か所)	○	→	
	地区体育館の整備 (3か所→5か所, 北部・北東部)		○	
	スポーツ施設の充実	①既存施設の改修や設備の充実		
		②施設の効率的な配置と整備		
		・函館市民体育館	○	→
		・函館市民プール	○	→
		・千代台公園陸上競技場	○	→
		・千代台公園野球場 (照明設備を含む)	○	→
		・その他野球場	○	→
		新川公園野球場	○	→
		函館八幡宮外苑野球場		○
		西桔梗地区野球場の取得整備	○	
		・根崎公園ラグビー場	○	→
		・日吉サッカー場	○	→
		・庭球場 (千代台公園・日吉市民・青柳市民・NHK広場)	○	→
		・千代台公園弓道場		○
		・根崎公園アーチェリー場	○	
		・マリンスポーツ施設		○
		・戸井運動広場		○
		・恵山運動広場		○
	・恵山総合体育館	○		
	・恵山プール		○	
	・南茅部運動広場	○		
	・南茅部プール		○	
	・南茅部スポーツセンター		○	

今後の方向	施 策	前期	後期
	地域開放事業を母体とする函館独自の「総合型地域スポーツクラブ」の設立および既存施設の活用等によるクラブハウスの整備 (0か所→5か所)(再掲)	○	→
	施設の利用時間の延長	○	
(2) 学校体育 施設の開放の推 進	スポーツ開放校の整備拡大(51校→61校)	○	→
	学校開放における体育館暖房の活用(0校→61校)	○	→
	地域開放事業の充実拡大(3か所→8か所)	○	→
(3) 民間施設 の活用	既存民間施設に係る情報の収集、提供	○	→
	施設の整備促進	○	→
	スポーツ・健康づくり指導者の活用	○	→



# 資 料 編

函館市のスポーツ年表

函館市のスポーツ・レクリエーション施設の概要

豊かなスポーツライフの指針（参考案）

スポーツ健康都市宣言

函館市スポーツ振興計画策定の経過

## 函館市のスポーツ年表

明治13年(1880)	函館沖でヨットレースが行われる
明治28年(1895)	函館尋常中学校で柔術・撃剣を教える
明治29年(1896)	私立東川尋常高等小学校に屋内運動場完成
明治40年(1907)	函館太洋倶楽部(オーシャンクラブ)が結成される
大正4年(1915)	函館師範学校で蹴球が行われる
大正6年(1917)	函館教育会の主催による初の学童水泳会を七重浜で開催
大正14年(1925)	函館中学校が全国中学校水泳大会で優勝
昭和2年(1927)	函館市体育協会創立
昭和7年(1932)	第1回函館市小学校連合体育大会を柏野総合運動場で開催
昭和10年(1935)	柏野総合運動場が第2種陸上競技場として公認される
昭和15年(1940)	市民運動場(汐見丘グラウンド)完成
昭和26年(1951)	千代ヶ岱球場完成
昭和29年(1954)	函館市において第9回国民体育大会開催(ハンドボール・高校野球)
昭和32年(1957)	函館市が独自に体育指導委員を設置
昭和33年(1958)	第1回市民体育祭を千代ヶ岱公園陸上競技場で開催
昭和36年(1961)	千代ヶ岱公園に第2種公認陸上競技場完成
昭和39年(1964)	第1回青函対抗体育大会開催
昭和42年(1967)	新川小学校で学校開放(スポーツ開放)開始
昭和43年(1968)	函館市スポーツ少年団結成
昭和46年(1971)	市民プール開館
昭和50年(1975)	市民体育館開館
昭和58年(1983)	市民体育館でロサンゼルスオリンピック・ハンドボールアジア予選大会開催
昭和61年(1986)	市民プール50mコース改築完成
昭和62年(1987)	全国高等学校総合体育大会開催(自転車・水泳競技)
昭和63年(1988)	第42回全国レクリエーション大会兼第1回スポーツ・レクリエーション祭開催
平成元年(1989)	(財)函館市文化・スポーツ振興財団設立
	第44回国民体育大会はまなす国体開催(自転車・水泳競技)
平成2年(1990)	函館市において第4回ツール・ド・北海道国際大会開催
平成3年(1991)	パイピング方式による市民スケート場開設
	第1回函館ハーフマラソン大会開催
平成4年(1992)	「スポーツ健康都市宣言」制定
平成5年(1993)	函館市スポーツ振興基金設置
平成6年(1994)	千代台公園野球場全面改修、「いきいき長寿都市宣言」制定
平成7年(1995)	ネット式湯川海水浴場開設
平成9年(1997)	日吉サッカー場完成
平成10年(1998)	石崎小学校で地域開放事業開始
平成11年(1999)	千代台公園陸上競技場全面改修
平成12年(2000)	千代台公園弓道場改修
平成14年(2002)	市民スケート場リニューアルオープン

参考：北海道体育協会「50年史」、函館市体育協会「創立70周年記念誌」、「函館の教育2004」

函館市のスポーツ・レクリエーション施設の概要

1 公共施設

区 分	施 設 名	所 在 地	施 設 概 要
陸上競技場	千代台公園陸上競技場	千代台町22番24号	第2種公認, トラック(全天候型舗装)400m×9コース インフィールド(芝生)106×69m スタンド 15,000人収容
野 球 場	千代台公園野球場 (オシャンスタジアム)	千代台町22番26号	両翼 99.1m、中堅 122m、内野クレイ、 外野芝生、スタンド 20,000人収容
	根崎公園野球場	高松町29番地	面積 11,000㎡ スタンド 450人収容、 ダッグアウト(2カ所)
	新川公園野球場	上新川町18番	面積 6,700㎡、スタンド 100人収容
	函館八幡宮外苑野球場	谷地頭町9番	面積 8,300㎡
	大森公園野球場	大森町33番	面積 18,500㎡ プレー面積 7,000㎡
	見晴公園野球場	見晴町8番地ほか	面積 8,000㎡ プレー面積 7,000㎡
	西桔梗西緑地野球場	西桔梗町589番地の65 ほか	面積 4,600㎡ 野球、ソフトボール等 使用
	西桔梗公園野球場	西桔梗町555番地の2ほ か	面積 18,800㎡ プレー面積 9,400㎡ 野球、ソフトボール等 使用
	南茅部運動広場野球場	川汲町1657番地ほか	面積 14,000㎡
運動広場等	旭多目的広場	大森町2番	面積 1,750㎡
	根崎公園少年運動広場	高松町58番地の1	面積 6,090㎡ プレー面積 4,950㎡ 少年野球・サッカー
	見晴公園広場	見晴町8番地ほか	面積 2,000㎡ 小運動会等 使用
	空港緑地 高松ふれあい広場	高松町105番地の4ほか	面積 14,000㎡ ゲートボール、ソフトボール、運動会等 使用
	昭和公園多目的広場	昭和町20番地の2ほか	面積 12,400㎡ サッカー等 使用 夜間照明
	戸井運動広場多目的広場	小安町525番地1	面積 4,306㎡
	恵山運動広場	川上町511番地	面積 9,600㎡

区 分	施 設 名	所 在 地	施 設 概 要	
運動広場等	南茅部運動広場 多目的グラウンド	川汲町1657番地ほか	面積 11,200㎡	
	古部グラウンド	古部町252番地3ほか	面積 1,617㎡	
	磯谷グラウンド	岩戸町1番地	面積 2,187㎡	
	函館市日吉サッカー場	日吉町4丁目7番	芝1面・クレ-1面 115m×78m, クラブハウス	
球 技 場	根崎公園ラグビー場	湯川町3丁目6番	芝 13,500㎡, スタンド 3,000人収容	
	旭岡公園	西旭岡2丁目38番地	アスファルトコート1面	
庭 球 場	空港緑地志海苔ふれあい 広場庭球場（ひがし広場）	志海苔町294番地の1ほか	アスファルトコート2面	
	昭和公園庭球場	昭和町20番地の2ほか	人工芝2面 夜間照明	
	千代台公園庭球場	千代台町27番2号	人工芝 10面, クラブハウス, 夜間照明	
	函館市青柳市民庭球場	青柳町10番	クレイコート 2面, 更衣室	
	函館市日吉市民庭球場	日吉町4丁目7番	クレイコート 5面	
	NHK広場テニスコート	富岡町3丁目21番	アスファルトコート 2面	
	戸井運動広場テニスコート	小安町525番地1	全天候型カラー舗装コート2面, クラブハウス	
	南茅部市民庭球場	臼尻町327番地3	ゴムチップウレタンコート 2面	
	体 育 館 (体育室, 多目的 ホール含む)	函館市民体育館	湯川町1丁目32番2号	アリーナ 1,720㎡, サブアリーナ 394㎡, 収容人員5,000人
		函館市亀田青少年会館	亀田本町19番21号	体育室 (バドミントン, バレーボール等使用)
函館市青年センター		千代台町27番5号	体育館 (バドミントン, 卓球, バレーボール等使用)	
函館市総合福祉センター (あいよる21)		若松町33番6号	多目的ホール (障害者, 児童のバスケットなど各 種スポーツや高齢者の社交ダンス等に使用)	
函館勤労者総合福祉センタ ー (サン・リフレ函館)		大森町2番14号	アリーナ 1,462㎡, 軽体育室 176㎡	
恵山総合体育館		川上町506番地	アリーナ 936㎡	
南茅部スポーツセンター		臼尻町604番地1	アリーナ 926.25㎡	
古部体育館		古部町252番地3ほか	体育館 283.36㎡	
磯谷体育館		岩戸町214番地	体育館 450.5㎡	



区 分	施 設 名	所 在 地	施 設 概 要
プ ー ル	函館市民プール	千代台町22番25号	屋内・温水50m×8コース(日本水泳連盟公認) 屋内・温水25m×7コース, 幼児プール
	恵山プール	川上町506番地	屋内・温水25m×8コース (うち1コース幼児用, 1コース低学年用)
	南茅部プール	尾札部町1608番地 1	屋内・温水25m×6コース, 低学年プール
弓 道 場	千代台公園弓道場	千代台町27番8号	射場・待機場他 169㎡, 的場 30㎡ 的数 5, 射程距離 28m
アーチェリー場	根崎公園アーチェリー場	湯川町3丁目6番	射場 2,700㎡, 的数 14, 射程距離 90m
スケート場	函館市民スケート場	金堀町10番8号 (市営競輪場内)	スピードスケートリンク 1周250m サブリンク 29m×60m
海 水 浴 場	函館市湯川海水浴場	根崎町4, 5, 6, 10, 11番 地先	75m×110m(遊泳区域70m×110m), 水深0~1.2m, 浮島5m×10m(通路2m×35m)
パークゴルフ場	空港緑地志海苔ふれあい 広場パークゴルフ場	志海苔町294番地の1ほ か	面積 14,600㎡ 18ホール
	白石公園パークゴルフ場	白石町208番地	面積 22,000㎡ 18ホール
	すずらんの丘公園 パークゴルフ場	滝沢町93番地	面積 62,000㎡ 36ホール
	恵山シーサイド パークゴルフ場	高岱町59番地1ほか	面積 124,363㎡ 18ホール
オートキャンプ場	白石公園 はこだてオートキャンプ場	白石町208番地	面積 55,500㎡ スタンダードカーサイト40, キャンピングカーサイト10, キャンサイト10, フリーテントサイト 3,000㎡
	戸井ウォーターパーク オートキャンプ場	原木町281番地ほか	面積 10,000㎡ スタンダードカーサイト22, フリーテントサイト23
スキー場	臼尻スキー場	臼尻町593番地 1	第1・第2ゲレンデ 面積 25,000㎡

## 2 主な民間施設

区 分	施 設 名	所 在 地
スポーツクラブ・ プール等屋内施設	セントラルフィットネスクラブ330函館	若松町6番3号
	テーオーアスレティッククラブ	海岸町10番17号
	スポーツクラブルネサンス函館	鍛冶2丁目6番15号
	サンスポーツクラブ	千代台町13番17号
	函館短期大学フィットネスセンター	高丘町52番1号
	ペアーレ函館	乃木町8番15号
	テーオースイミングスクール	本通3丁目1番11号
	函館イトマンスイミングスクール	富岡町3丁目22番5号
テニスコート	ピアインドアテニススクール	富岡町3丁目23番4号
	ポニーインドアテニスクラブ	金堀町5番35号
	テニススクールファイン	本通3丁目2番12号
	フジテニスクラブ	見晴町67番11号
	NPO函館テニス倶楽部	陣川町45番地の2
パークゴルフ場	陣川温泉パークゴルフ場	陣川町122番地の7
	函館桔梗高台パークゴルフ場	桔梗町461番地の4

## 豊かなスポーツライフの指針（参考）

ライフ ステージ	スポーツライフ のポイント	豊かなスポーツライフ	運動・スポーツの楽しみ方
乳・幼児期 児童期	多様な遊びやスポーツを	生涯にわたる継続的なスポーツ習慣の基礎を培うとともに、文化としてのスポーツの出会いを大切に、その担い手を育成していく。日常生活の中で、親子の触れ合い、仲間との交流を深めながら伸び伸びと遊びや運動・スポーツ、自然の中での様々な活動に親しみ、運動・スポーツへの愛好心を涵養する。	スポーツの楽しさや喜びを味わうには簡易なルールでゲーム性に富んだ内容の工夫を図る。また、調整力を高めるためには、リズムカルな全身的な運動や用具・遊具等を使った変化のある運動を親子や友達と工夫したり、協力して行う。
青年期前期 青年期後期	シーズンに応じたスポーツを 可能性に向かってスポーツを	多様なスポーツを体験し、スポーツの楽しさや喜びを体感し、スポーツに主体的に取り組む態度を育成していく。個人のスポーツ適性に基づき得意種目の技術レベルの向上を目指したり、みるスポーツの楽しさも味わうなど生涯にわたって主体的、継続的にスポーツに親しんでいくスポーツ習慣を形成し、その定着を図る。	自らの興味・関心に合ったスポーツを生涯にわたって継続的に行えるようにするには、学校での運動部活動やサークル活動はもとより地域のスポーツクラブ等に積極的かつ自主的に参加する。また、自らの可能性へのチャレンジやスポーツボランティア活動を通じてスポーツの楽しさを味わう。
壮年期 中年期	運動・スポーツを楽しみながら体力づくりを	社会人として時間的制約も多くなるが、日常生活の中で、主体的・継続的にスポーツに親しむとともに、仲間や友人との交流、家族との触れ合いを図りながら、健康で積極的なライフスタイルを形成していく。また、子どもとの実践・体験を通じて、運動・スポーツ活動の楽しさを子どもに伝えていく。	週休2日制の広がりの中で、ウィークエンドを活用するなどスポーツを主体的に生活に根付かせていくとともに、ファミリースポーツを実践したり、家族や仲間とで海、山などの自然の中で様々な活動を楽しむ。
老年期前期 老年期後期	体力に応じた運動・スポーツを	加齢に伴う身体機能の低下はあるものの、主体的で自立したライフスタイルや健康づくりを心掛けそれぞれの体力や目的に応じて運動・スポーツ・レクリエーションに親しむとともに地域の人々との触れ合いを図る。	家族や仲間、世代間を超えた人々とスポーツや趣味を通じて積極的に交流を図っていく。また、自らの健康づくりに心掛けるとともに体力の衰えを防ぐためにも、楽しみ方を工夫し、主体的に運動・スポーツに親しむ。

※ スポーツライフのポイントは各ライフステージにもかわりを有するが、特に重要とされる期にその特徴を示した。

【注：文部省の保健体育審議会答申（平成9年9月）】



## スポーツ健康都市宣言

わたしたち函館市民は、スポーツと健康づくりを通じて、からだと心を鍛え、活力あふれるまちづくりをめざし、ここに「スポーツ健康都市」を宣言します。

- 1 スポーツと健康づくりに励み、たくましいからだと豊かな心を育てます。
- 1 スポーツと健康づくりに親しみ、明るくすこやかな生活を営みます。
- 1 スポーツと健康づくりを通じて、友情とふれあいの輪を世界に広げます。

平成4年10月10日

函館市

## 函館市スポーツ振興計画策定の経過

- 平成13年 1月～2月 ・スポーツ・レクリエーション団体調査実施
- 11月 ・市民アンケート調査実施
- 平成14年 3月 ・スポーツ・レクリエーション団体調査および市民アンケート調査結果の分析～計画たたき台の作成
- 平成16年 7月 8日 ・計画たたき台に対する函館市文化・スポーツ振興財団からの意見聴取
- 7月 9日 ・庁内関係部による関係課長会議の開催
- 7月12日 ・計画たたき台に対する函館市体育協会からの意見聴取
- 7月22日 ・計画たたき台に対する函館市体育指導委員会からの意見聴取
- 7月29日 ・計画たたき台に対する第1回スポーツ振興審議会からの意見聴取
- 9月30日 ・社会教育委員の会議の開催
- 10月21日 ・庁内関係部による関係課長会議の開催
- 10月22日 ・庁内関係部による関係部長会議の開催
- 10月27日 ・教育委員会で計画素案の諮問について議決
- 10月28日 ・第2回スポーツ振興審議会で計画素案について諮問
- 11月 4日 ・第3回スポーツ振興審議会で答申案について審議
- 11月12日 ・スポーツ振興審議会から教育委員会へ答申書の提出
- 11月17日 ・教育委員会でスポーツ振興審議会からの答申書について報告
- 11月22日 ・市議会総務常任委員会へ計画案の報告，説明
- 11月26日 ・市議会総務常任委員会で計画案について審議
- 平成17年 2月15日 ・市議会総務常任委員会で計画案について審議
- 2月16日 ・教育委員会で計画案について議決



# 函館市スポーツ振興計画

平成17年3月

発行 函館市

編集 函館市教育委員会生涯学習部スポーツ振興課

〒040-8666 函館市東雲町4番13号

電話 0138-21-3474

